



(社)いわふね青年会議所 広報紙

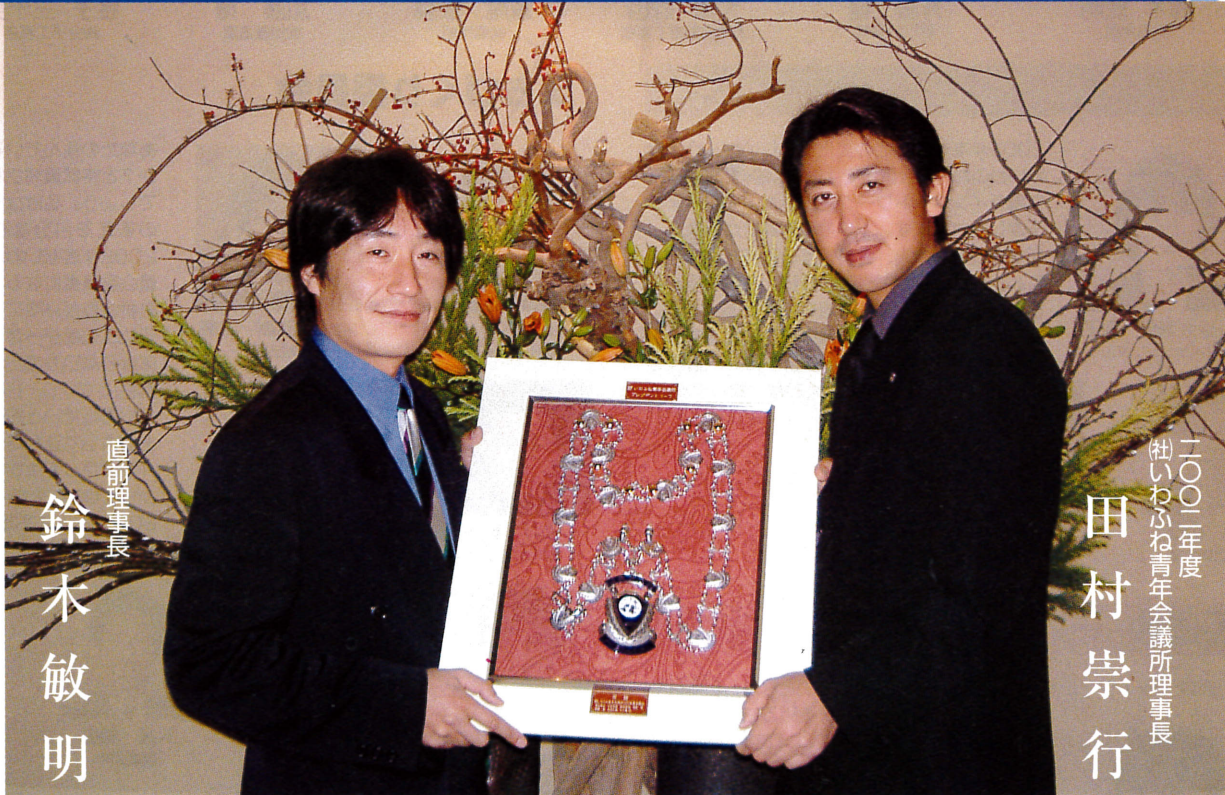
あらかみ

創立35周年

元旦号

2002.1.1

混沌を打破し、
地域社会に貢献します。



直前理事長
鈴木敏明

2002年度
いわふね青年会議所理事長
田村崇行

新旧理事長がプレジデントリーフを引き継ぐ

青年として、若さ・蒼さを失わず
希望に溢れ、挑戦し続けます。



新年のご挨拶

直前理事長

鈴木敏明



新年のご挨拶

2002年度理事長

田村崇行

新年明けましておめでとうございます。

「地域の皆様あつてのJCIです。」昨年は(社)いわふね青年会議所 2001 年度チームの展開した「挑戦と進化」の青年会議所(略称JC)運動にご理解と、ご協力を賜りありがとうございました。

「新世紀・激動・そして混沌」昨年度は激動の一年、パラダイムシフトの年でした。日本経済の低迷は続き、首相は森さん(小松JC・OB)から小泉さん(横須賀JC・OB)に変わり内閣は高い支持率を維持しています。(与党の山崎幹事長は福岡JC・OB、麻生政調会長は飯塚JC・OB)若くて魅力的な石原行革大臣(東京JC・OB)は、大人気で登場し、今では日沿道にも事業凍結を求めています。さらに世界を震撼させた米国同時多発テロは、我々日本人を安全保障や国益に直面させ、現実的な選択と対応を迫っています。そしてグローバル化した世界での多発テロは国際社会と世界経済に、更にこの地域にもその負の連鎖を与えています。他にも増加する凶悪犯罪に代表される社会不安、等々ネガティブな要素は増大を続けています。これらを年度当初にはとても想像出来ませんでした。ロマンチックな響きの「21世紀」の現実はとても厳しい「混沌」でした。しかし、この混沌を打ち破るのが我々青年の、JCIの使命と任じています。

「NPOとJCI」昨年度の、いわふねJCIは都岐沙羅パートナーズセンターとの協力で、特に若年層へのNPO活動の普及を図りました。責任世代のJCIが、今まで積み重ねた経験とネットワークを活かし、次代を担うNPOと手を携え協働することで、明るい豊かな社会の構築のさらに大きな力になるべく行動しています。

「青少年健全育成」昨年度は「アルビレックス・ジュニアサッカースクール」「わんぱく相撲いわふね場所」等で次代を担う子供達の健全育成を図りました。保護者の方や行政の方には大変お世話になりました。

「これからも」最後になりましたが、今後もJCIは社会起業家として公共のため運動を展開します。我々、責任世代であるJCIのノウハウと地域の、県内の、国内の、世界のネットワークをフルに活用して地域社会に貢献してまいります。

今後とも地域の皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします。

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は(社)いわふね青年会議所の活動に、ご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございました。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

本年、当(社)いわふね青年会議所は設立35周年を迎えます。これはJCIの理念のもと、志をもってご活躍いただいた118名の先輩諸兄の努力の賜物であるとともに、青年会議所活動を支えて頂きました地域の皆様方のご協力のお陰です。

さて、青年会議所(Junior Chamber 略称JC)とは、「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、時代の担い手たる責任感を持った20才から40才までの有志の集まった団体です。その理想と責任、成人たる人格をもっていれば誰でも、人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各地域のJCIに入会できます。活動はボランティアに基づき、資金も会員の持ち寄りにより、基本的に他からの補助を求めない独立した中立の団体です。半世紀の歴史をもつ日本のJCI運動は、現在750余りの地域で約6万人の会員が活動し、その連絡調整機関として(社)日本青年会議所があります。世界に及ぶJCI運動の中核は国際青年会議所であり98ヶ国約32万人が国際的な連携をもって活動しています。

JCIの事業目的は、「社会と人間の開発」であり、市民との共感をもとめ社会開発による日常活動を展開し、市民運動の先頭に立って邁進する団体、それがJCIです。(社)いわふねJCは、村上市岩船郡在住、在勤の会員で構成され、いま現在の正会員数は40名、賛助会員4名を数え、日々、企業と家庭を力の源とするJCI会員として、貴重な人生の大切な時期に奉仕、修練し、友情を培っております。

本年度は、コミュニティとネットワークの融合～自立した地域間の大きな可能性をテーマとする第15回 日本海夕陽ラインシンポジウム in いわふねをメイン事業とし、様々な事業を通じ地域社会にとってかけがえのない運動体となるように、会員一同、粉骨砕身精進してまいります。

2002年度スローガン

「至誠の感ずる所、天地も之が為に動く」

メンバー紹介



理事長

田村 崇行
（株）ヤマギン



直前理事長

鈴木 敏明
（株）山木組



専務理事
齊藤 健
朝日舗道(株)



副理事長
大滝 哲也
大滝自動車工業(株)



副理事長
鷲尾 辰弥
（株）鷲尾組



副理事長
加藤 博
（株）加藤造園



監事
金子 三十美
（株）金子工務店



監事
木村 友紀
（株）木村組

事務局



事務局長 貝沼 正巳
（株）新和建設



事務局次長 斉藤 敬子
（株）サイケンレンタル



安藤 成
ホームサービス ひまわり



小池 慶彦
村上信用金庫



丹 大輔
（株）丸橋

2002年を迎え社会の変化が著しい中、今年度（社）いわふね青年会議所では、35周年記念式典、夕陽ラインネットワークといったメイン事業を予定しております。本年度事務局では、スムーズな会の運営の為、会員相互の連絡を円滑するとともに、定款や諸規定の見直しも重要視し、事務局一丸となって取り組む所存であります。JC理念の下、当会各事業の成功に寄与するよう努力いたしますので、皆様のご協力宜しくお願い致します。

まちづくり委員会



委員 小野 力
（株）村上塗装工業



副委員 斉藤 芳憲
（株）住吉屋



横井 賢
（株）新和開発



貝沼 栄司
貝沼総合保険

あなたの住んでいるまちの良いところは何か？と突然質問された時、皆さんはどう答えるでしょう。私ははっきりと答えられません。その答えを自分なりに見つけ出すためにも、2002年度（社）いわふね青年会議所まちづくり委員会委員長になることを決めました。現在、市町村合併が必要にせまられる中、市町村合併は行政と住民が一体となって、進めていかねばならないものだと考えます。そこで、市町村合併について、行政の皆さん、地域の皆さんと共に考えたいと思います。又、青少年育成事業として江戸時代を体験することによって、「助け合って生きる」ことを理解し、本当の豊かさとはなにかきづいてもらう事を目的としたEDOゲームにも取り組みます。今年一年、精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

拡大交流広報委員会

2002年、世界最大のスポーツ祭典「FIFAワールドカップ」は新潟が会場の一つとなり、日本はもとより世界各地から注目を集めることとなります。また当いわふね地域では「第15回日本海夕陽ラインシンポジウム」「創立35周年記念式典」などが開催され、2002年度はまさに「発信」と「交流」の1年であります。委員会の重点事業は大きく3つに分かれます。一つ目は世代交代に伴う会員の減少や、メンバー相互の活性化を目的とした会員拡大。2つ目はスポーツや地元開催事業を通じた、地域間交流への積極的な取り組み。3つ目はHPや外部報による「（社）いわふね青年会議所」と「いわふね広域圏」の各方面への情報発信。以上、委員会名の通り「拡大」「交流」「広報」を3本柱とし、活気あふれる委員会活動に取り組みます。



委員長 佐藤 学
（株）フォト・スタンプ新潟



副委員長 高橋 聡
村上生コン(株)



渡辺 明
（株）わら竹



今井 伸一
（株）大進建設



岡崎 明広
（株）日本旅行 村上支店



高橋 透
メガネの愛眼堂 村上店



永田 強
（株）永徳酒販



土谷 孔秀
静雲荘

例会・研修委員会

みなさんは今の自分に満足していますか？みなさんはJoyceとしての今の自分に満足していますか？人間としてもっと成長したい、周囲の人より良い付き合いがしたい、お互いに豊かな人生を送りたいと思っているが、思うように理想を実現できないのはなぜでしょうか。人間は誰でも、自分の中に素晴らしい能力を持っています。ところが、様々な要因がその能力の発達を妨げていることもあるのではないのでしょうか。人生を満足のいくものに変えていくためには、自分自身が気付いていない「本当の自分」を知る事が大切だと思います。また、みなさん！尊敬し人生を共に送ることのできる友人がいますか？
当委員会の例会・研修を通し、自己の可能性を見出し、いきいきと充実した人生を送ることができるような、ひとづくり・仲間づくりを目指し、楽しい例会・研修をしてゆきたいと思っております。



委員長 木村 浩一
（株）宮作



副委員長 松田 郁子
朝日物流(株)



竹内 歩
（株）千渡里



鈴木 洋司
鈴木建具製作所



太田 成巳
墓石の石光



大田 文美
（株）大田電気



渋谷 隆
（株）渋谷工務店



吉村 文和
（株）吉村電工

夕陽ライン企画室



室長 中村 慎一郎
（株）ナカムラ自動車

白道をはじめとするインフラ整備のネットワークの構築と、沿線住民の情報、経済、生活と言ったソフトのネットワーク形成を目的として、日本海夕陽ラインネットワーク協議会は組織されています。毎年、様々な切り口にてその必要性、重要性、将来性をテーマとして青森、秋田、山形、新潟4県の青年会議所をバトンタッチし、実績を積んできました。本年、我が、いわふねの地に夕陽ラインシンポジウムを開催するにあたり今までの成果を更に発展的にしたいと考えています。奇しくも、「（社）いわふね青年会議所」は35周年を迎える年とも重なりました。広域JCとして名称を改め、地域に多くを発信して10年。功績を多数上げてきましたが、激動の時代の中に今一度、その存在意義を確認し発展的にしたいとも思っています。2つの目的を合致させ、ネットワークの形成構築とコミュニティの活性を両輪の車輪とし、現実的なまちづくりに取り組む時期ではないでしょうか。そのためには、必要条件として高速交通網及び情報網、十分条件として地域住民によるコミュニティの再発見、再構築、どちらが欠けても足りなくとも理想への到達はかないません。つまり元気な地域が結びつくことにより、日本海国土軸としての繁栄と将来が掴みとれるのです。15回目の夕陽ラインシンポジウム、開催3回目に、もう一度真摯に原点に帰ろうと考え、企画いたします。

35周年企画室



室長 小野 徹
（株）ほんぼ

1967年、この地に青年会議所が誕生してから、35年が経ちました。熱い思いの先輩諸兄や、青年会議所活動に御理解とご尽力頂いております、地域の方々に感謝の念がたえません。その思いを「35周年記念式典」という形で、皆様に表せたらと思っております。また、今年度は「第15回日本海夕陽ラインシンポジウム」も開催されますので、日治道の必要性・重要性と共に、圏域を越えた交流・流通を通して、新しい光が見える年になると感じております。今まで培って来た35年…これからの未来…に向けて「温故知新」の1年間としていきたいと思っております

2002年7月14日(日)開催!
第15回
日本海夕陽ラインシンポジウム

(社)いわふね青年会議所主催にて当地で3回目の開催となります。

JC会員
募集中

JCの3信条は、奉仕・修練・友情です。20歳～40歳までの青年が集まっているいろいろな活動をしていきます。この地域に密着して「明るい豊かな社会」を創り上げることを目標とし、会員相互に協力し合ったり、議論し合ったり、いっしょに苦労したりしながら一生涯の仲間作りをしています。本当に楽しく自己研鑽のできる場です。こないいわふねJCに興味を持った方、いっしょに活動したい方は是非ご連絡下さい。お待ちしております。

●事務局/村上商工会議所内事務局 岡田 TEL0254-53-4257 ●担当委員会/拡大交流広報委員会 佐藤 TEL.090-3473-9296